

大雪山の高山帯におけるメダイチドリの初記録

磯 清志¹⁾・片山 徹²⁾The First Record of the Lesser Sand Plover *Charadrius mongolus* in the alpine zone of Mt. Daisetsu (Taisetsu), central HokkaidoKiyoshi ISO¹⁾ and Toru KATAYAMA²⁾

2007年9月11日、午前11時30分頃、北海道上川郡上川町北海平(43° 39' N, 142° 54' E)で著者らの一人、片山がメダイチドリ2羽を観察し、うち1羽を写真撮影した。

観察地点は、白雲岳(標高2229.5m)の北側、北海平の標高2070mで凍結割れ目が広範囲に存在する風衝地である。観察地点の植生はイワウメ *Diapensia lapponica* やイワヒゲ *Cassiope lycopodioides* が散在し、ダイセツイワスゲ *Carex stenantha* などのスゲ類が優占していた。

近くに寄ると少し遠ざかるので、常に約20mの間隔を保ちながら観察した。最初、2羽で行動していたが、1羽が風衝地の窪地に飛去した。もう1羽は地表面の何かを啄んでいたが、10分程で先に飛去した個体の方へ移動した。観察中に鳴き声は発していなかった。

観察した個体の大きさはムクドリ大で嘴は黒く、太く短かった。頭部から後頸、背、翼上面は灰褐色、喉と下面は白色で脚は暗色であった。過眼線は灰褐色で淡色の眉斑があった。また、上面の各羽には、淡色の羽縁があった(図1)。

これらの特徴から、オオメダイチドリの幼鳥の可能性も考えられた。体の大きさはメダイチドリに比べ、オオメダイチドリがわずかに大きいと一緒に観察されない場合は大きさによる野外での識別は困難である。しかし、両者の嘴の長さや形状には違いがあり、嘴基部から嘴先端までの距離と嘴基部から眼の後端までの距離がメダイチドリで

は前者の方が短い、ほぼ等しいのに対し、オオメダイチドリでは前者の方が長い。また、嘴先端の形状がメダイチドリでは膨らんで見え、上下嘴の合わせ目の角度が急で嘴先端がずんぐりした印象に見える(Alström et al. 1991)。図1の個体は嘴の長さや形状のいずれもメダイチドリに一致した。

メダイチドリには、5亜種が知られ、基亜種 *mongolus*、亜種 *stegmanni* を含む *mongolus* グループと亜種 *pamirensis*, *atrifrons*, *schaeferi* を含む *atrifrons* グループの2亜種グループに分かれる(Alström et al. 1991, Cramp 1983, Dickinson 2003, Hayman et al. 1986)。

日本からは亜種 *mongolus* と *stegmanni* が記録されているが、*mongolus* は一度記録があるだけの迷鳥である(Brazil 1991, 日本鳥類目録編集委員会 2000)。しかし、近年、*atrifrons* グループに属すると思われるもの(亜種 *schaeferi* ?) も西日本で観察されている(氏原・氏原 2004)。

今回観察した個体の亜種を明らかにするため、これら2亜種グループの形態上の違いのうち、亜種グループ間の差異が顕著であると考えられる嘴と下面の羽衣について検討する。

嘴の形状は、*mongolus* グループではずんぐりして先端が膨らんだ輪郭をしめすが、*atrifrons* グループは細く、真っ直ぐで先端はより尖っている。また、幼鳥の下面は、*mongolus* グループでは胸側の灰褐色斑が顕著であるが、*atrifrons* グループで

1) 北海道旭川農業高等学校 079-8431 北海道旭川市永山町14丁目153番地, Hokkaido Asahikawa Agriculture High School, Nagayama-cho, Asahikawa, Hokkaido, 079-8431, Japan

2) 層雲峡ビジターセンター 078-1701 北海道上川郡上川町層雲峡, Sounkyo Visitor Center, sounkyo, Kamikawa-cho, Hokkaido, 078-1701, Japan



図1. メダイチドリ幼鳥。2007年9月11日、北海道大雪山の高山帯にて撮影。

Fig.1. Juvenile Lesser Sand Plover *Charadrius mongolus* in the alpine zone of Mt.Daisetsu, central Hokkaido on September 11 2007



図2. メダイチドリ幼鳥（図1と同一個体）。胸側の明瞭な灰褐色斑に注意。

Fig.2. Juvenile Lesser Sand Plover (the same individual as Fig.1). Note the breast patches are prominent greyish-brown

は不明瞭で胸全体が赤みを帯びたパフ色を呈する (Garner 2003)。観察した個体は、図1の嘴の輪郭、さらに図2の胸側の斑の特徴から、*mongolus*グループに属すると考えられた。

*mongolus*グループに属する亜種*stegmanni*と亜種*mongolus*の野外での識別は困難である (真木広造・大西敏一 2000)。しかし、観察した日の直近に台風などの低気圧の通過はなく、極東で繁殖し台湾からオーストラリアで越冬する亜種*mongolus*が迷行する可能性は極めて低い。したがって、観察した個体は主に日本を通過、越冬する亜種*stegmanni*の可能性が高いと考えられる。

文 献

Alström, P., Colston, P. & Lewington, I. 1991. A Field Guide to the Rare Birds of Britain and Europe. Harper Collins, London.

Brazil M A. 1991. The birds of Japan. Christopher Helm, London.

Cramp, S. (ed.) 1983. The Birds of the Western Palearctic. Vol.3. Oxford University Press, Oxford.

Dickinson, C. (ed.) 2003. The Howard and Moore Complete Checklist of the Birds of the World. Christopher Helm, London.

Garner, M., Lewington, I. & Stack, R. 2003. Mongolian and Lesser Sand Plovers: an identification overview. Birding World. 16(9): 377-385.

Hayman, P., Marchant, J. & Prater, T. 1986. Shorebirds: an identification Guide to the Waders of the World. Christopher Helm, London.

真木広造・大西敏一 2000. 日本の野鳥590. 平凡社, 東京.

日本鳥類目録編集委員会 (編) 2000. 日本鳥類目録 改訂第6版. 日本鳥学会, 帯広.

氏原巨雄・氏原道昭 2004. シギ・チドリ類ハンドブック. 文一総合出版, 東京.

Summary

We report the first record of Lesser Sand Plover *Charadrius mongolus* in the alpine zone of Mt.Daisetsu, central Hokkaido. Two Lesser Sand Plovers were observed on 11th September 2007 at Hokkaidaira (alt.2070m) in Mt.Daisetsu. We consider the subspecies of the observed Plovers. There are two different subspecies-groups, the *mongolus*-group, and the *atrifrons*-group. We realize the Plovers are the *mongolus*-group because of the features of the bill and breast side marks. The *mongolus*-group involves two subspecies, *C. m. mongolus* and *C. m. stegmanni*. Subspecies *C. m. mongolus* is an accidental visitor which have been recorded once in Japan. Therefore, we consider that the Plovers are probably subspecies *C. m. stegmanni*.